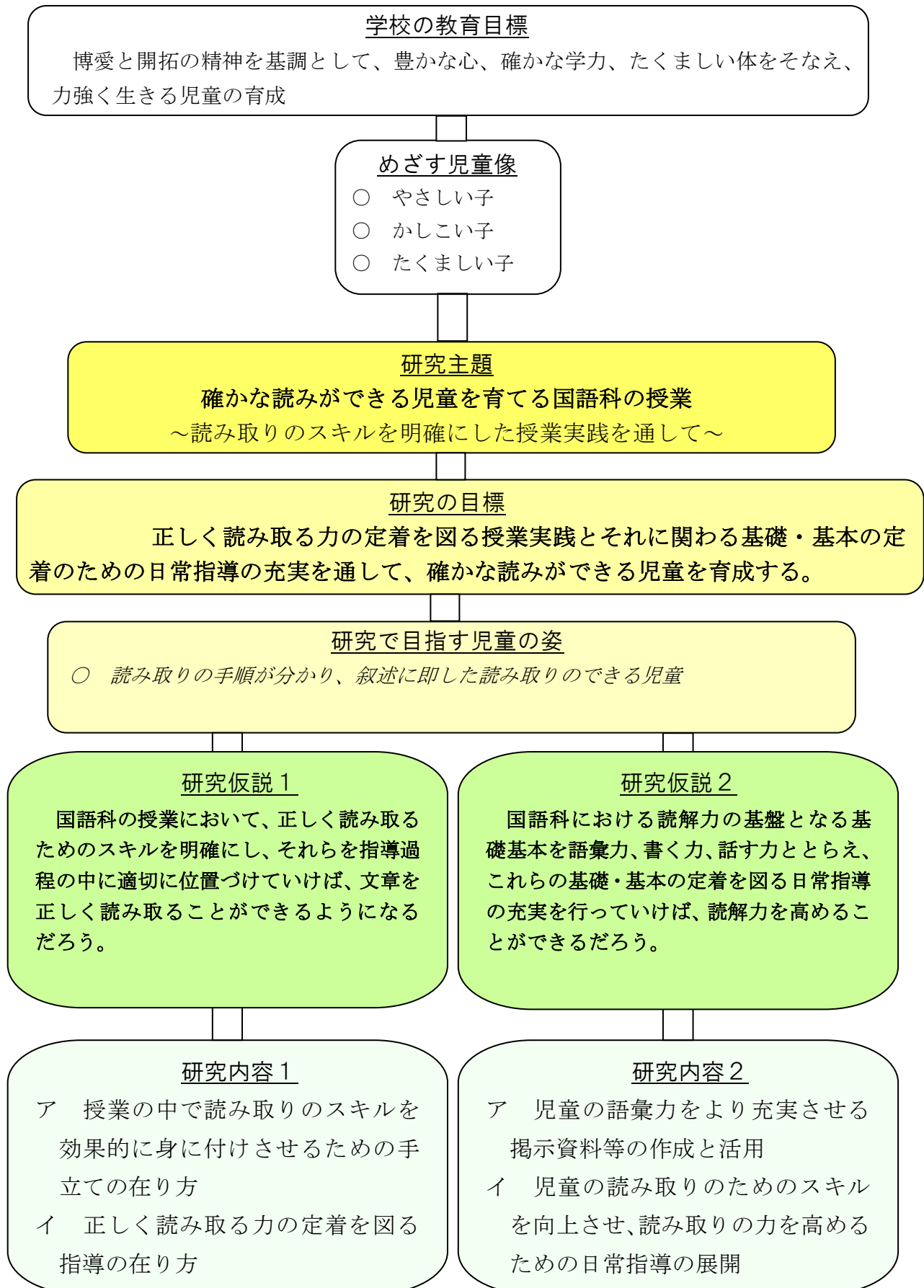


研究の全体構想図

1 主題研究の概要



2 現状【成果】

- (1) 昨年度、一昨年度と「自分の考えを豊かに表現できる児童の育成」を目指してきた。発表や話し合いのための手立て、ワークシートの工夫などにより、児童は話し合いに深まりが見られるようになり、また、発表の仕方が具体的に分かるようになってきたため、これまでよりもさらに意欲的に発表ができるようになってきた。
- (2) 児童の語彙力をより充実させる掲示資料等の作成と活用により、児童の言葉への興味・関心が高まり、人前で積極的に表現しようという意欲の向上が見られた。

3 現状【課題】

- (1) 読解力、即ち文章などから必要な情報を取り出す「正確に読み取る力」が十分身に付いていないために、そこから自分の考えたことや意見などを発信する「書く力」「話す力」にも影響を及ぼしている。また、テストの問題文を正確に読み取ることに問題が見られる。
- (2) 授業における発表がなかなか広がらず、話し合いが低調となり、内容の理解や考えを深めることにつながりにくい実態がある。
- (3) 全体的に児童の読書傾向には明らかな偏りがある。このことが児童の読解力にマイナスの影響を及ぼしていると考えられる。

4 課題に対しての対応策

- (1) 国語科の授業において、正しく読み取るためのスキルを明確にし、それらを指導過程の中に適切に位置付けるとともに、各学年の児童の実態に応じたスキルが身に付くための手立てを講じていくことで、文章を正しく読み取ることができるようにする。
- (2) 語彙力、書く力、話す力は言語活動の中核であるにとらえ、これらの基礎・基本の定着を図る日常指導の充実を行っていく。検証授業や各学年の研究実践に位置付けられた児童の読み取りや話し合いのスキルを、小学校6年間というスパンで、組織的・継続的に積み上げていく。
- (3) 年間を通して各学年の実態に応じた課題読書として児童用書き下ろされた短いエッセイや新聞記事などを与えていくことで、幅広い読書への興味・関心をもたせるとともに、読解力のレベルアップの一助とする。

5 本時授業について

- (1) 本時授業づくりの基本的な考え方

本単元は、2教材構成の説明文単元である。まず見開きの第1教材文「感情」で主に構成や筆者の主張の述べ方を学習する。本来は2時間構成であるが、教材文が児童の実態に対して難度が高いので、2時間目の読み取り、そして筆者の考えをとらえる部分を2時間に分割し、前半の全体の読み取りの部分を本時に位置付けている。このように読み取りのために独立した1時間を取ることによって、全員が教材文の主旨をおおむね理解できるような手立てを取りたい。そのことによって、児童はこの教材文によって本単元の学習方法をよりつかみやすくなると考える。

- (2) 授業仮説

- 正しい読み取りのためのスキルの内容が明確であれば児童は文章を正しく読み取ることができるだろう。
- 正しい読み取りのためのスキルが指導過程の中で適切な位置付けがなされていれば、児童は文章を正しく読み取ることができるだろう。